

# 環境活動・社会貢献活動への取り組み

## 富士通グループの環境活動

1935年の創業以来、「自然と共生するものづくり」を追求してきた富士通グループは、環境保全を経営の最重要事項の一つと位置づけ、FUJITSU Wayの企業指針「社会に貢献し地球環境を守ります」に基づき、環境経営に取り組んでいます。

また、あらゆる事業領域で継続的に環境活動を実践していくために、理念と行動指針を明文化した「環境方針」、全ての環境活動のベースとなるコンセプト「Green Policy 21」、2020年をターゲットとする中期環境ビジョン「Green Policy 2020」を定めるとともに、グリーンICTによる環境負荷低減プロジェクト「Green Policy Innovation」と「第6期富士通グループ環境行動計画」を推進しています。これらを通じて、自社グループのみならずお客様や社会の環境負荷低減に貢献しています。

### 富士通グループ環境方針

▶ <http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/approach/policy/>

### 環境コンセプト「Green Policy 21」

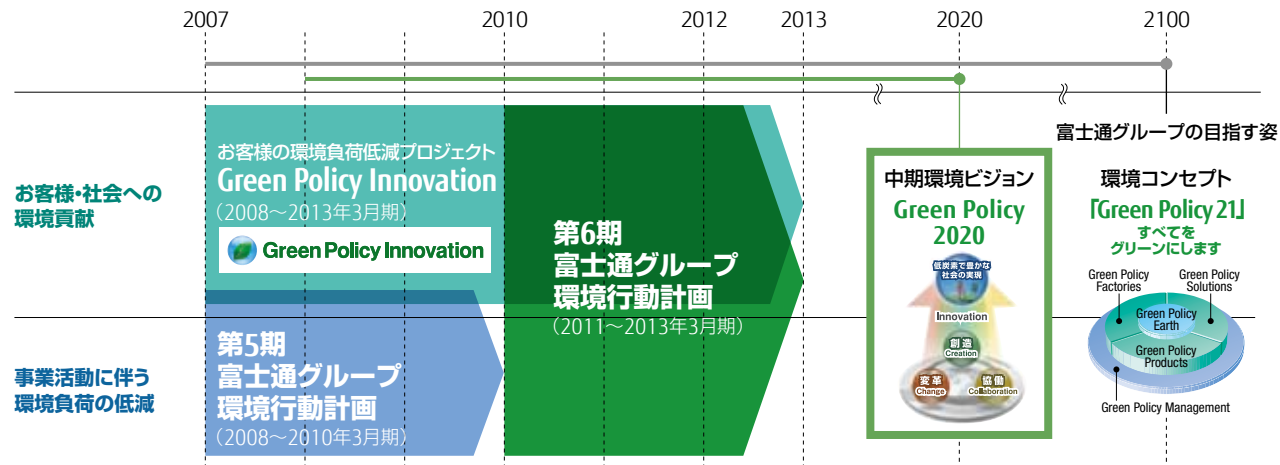
▶ <http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/approach/concept/>

## グローバルICT企業として、「自社の事業活動」と「お客様・社会」の環境負荷の低減に挑戦する

低炭素社会の実現は人類にとって21世紀最大のテーマの1つとなっています。2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を2050年までに半減するには、社会全体で環境に配慮した働き方や暮らし方を追求しエネルギー効率を向上させていくことが必要であり、それらを様々な側面から支えるICTの重要性がますます高まっています。

富士通グループは、先進的な環境技術を開発するとともに、それらを適用した製品やサービスを世界に普及させていくというグローバルICT企業としての使命を追求し、自社の事業活動における環境負荷低減はもちろん、お客様・社会の環境負荷低減に広く貢献していきます。

### 富士通グループの環境活動体系



### 環境活動のあゆみ

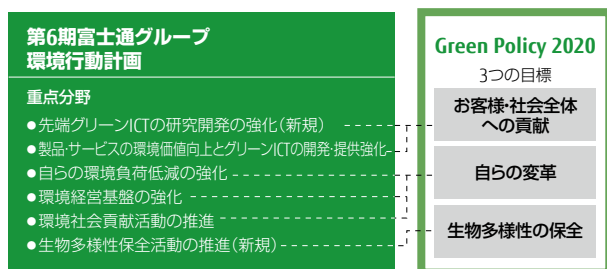
- |                                             |                                                                       |                                            |
|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| <b>1935年</b> 川崎工場建設時、初代吉村社長の提言により庭園様式を取り入れる | <b>1997年</b> 国内全製造工場にてISO14001認証取得完了                                  | <b>2008年</b> 中期環境ビジョン「Green Policy 2020」策定 |
| <b>1938年</b> 川崎工場竣工                         | <b>2000年</b> 環境本部発足                                                   | <b>2009年</b> 生物多様性行動指針策定                   |
| <b>1972年</b> 各工場に環境管理課設置                    | <b>2002年</b> 富士通グループ環境方針制定                                            | <b>2010年</b> 第6期富士通グループ環境行動計画策定            |
| <b>1989年</b> 環境対策委員会発足                      | <b>2006年</b> 海外グループ会社を含めたISO14001のグローバル統合認証を取得                        |                                            |
| <b>1991年</b> 環境技術推進センター発足                   | <b>2007年</b> グリーンICTによるお客様の環境負荷低減プロジェクト「Green Policy Innovation」をスタート |                                            |
| <b>1992年</b> 富士通環境憲章制定                      |                                                                       |                                            |
| <b>1993年</b> 第1期富士通環境行動計画策定                 |                                                                       |                                            |

## 第6期富士通グループ環境行動計画を開始

富士通グループは、2010年4月から2013年3月期までの目標を定めた「第6期富士通グループ環境行動計画」を開始しています。

本計画では、「Green Policy 2020」の3つの目標である「お客様・社会全体への貢献」「自らの変革」「生物多様性の保全」に基づき、6つの重点分野「先端グリーンICTの研究開発の強化」「製品・サービスの環境価値向上とグリーンICTの開発・提供強化」「自らの環境負荷低減の強化」「環境経営基盤の強化」「環境社会貢献活動の推進」「生物多様性保全活動の推進」を定め、さらに具体的な活動目標として18項目を設定しています。

第6期富士通グループ環境行動計画の初年度にあたる2011年3月期は、年度目標を全て達成しています。



## ITサービス業界で初めて「エコ・ファースト企業」に認定



エコ・ファースト・マーク

2010年9月6日、富士通グループはITサービス業界で初めて「エコ・ファースト企業」として環境省から認定されました。エコ・ファースト制度とは、企業の環境保全に関する行動をさらに促進するため、企業が環境大臣に対し、環境保全の取り組みを約束する制度です。

当社の代表取締役社長山本正巳は環境大臣に対して、富士通グループの「エコ・ファーストの約束」として、1.グリーンICTの提供により、お客様・社会の環境負荷を低減、2.自らの事業活動における環境負荷を低減、3.生物多様性の保全を実現する社会づくりへの貢献を約束しました。

また、2011年3月に発生した東日本大震災による電力需要の逼迫を受けて、エコ・ファースト企業の一員として、5月に「2011年夏の節電の約束」を宣言しました。

また、2011年3月に発生した東日本大震災による電力需要の逼迫を受けて、エコ・ファースト企業の一員として、5月に「2011年夏の節電の約束」を宣言しました。



環境大臣より認定を受ける山本社長

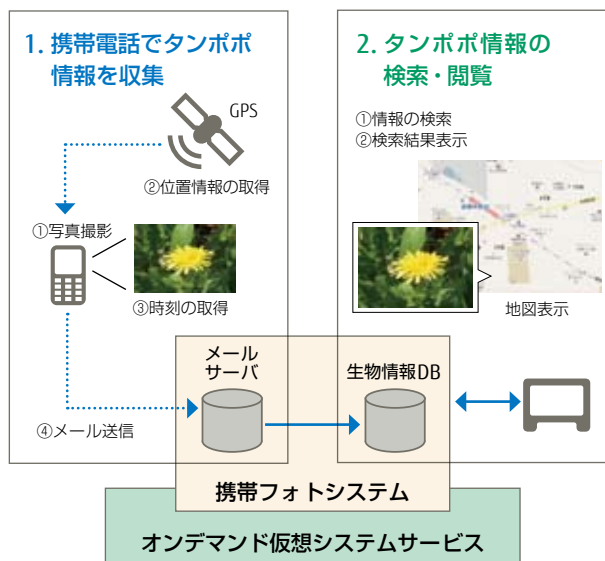
## ICTを活用した生物多様性の保全

富士通グループはICTを活用した生物多様性保全活動として、2010年4月に全国タンポポ分布調査を開始しました。

これは、富士通エフ・アイ・ピーの「携帯フォトシステム」を活用した取り組みで、GPS機能付き携帯電話のカメラで撮影したタンポポの画像をデータベースに蓄積し、地図情報とマッピングして閲覧・分析するというものです。富士通グループ社員とその家族を対象にトライアルを6ヶ月間実施したところ、約1,400枚の画像データが集まりました。

このトライアルを経て、調査参加者を社員から全国の市民に拡大し、タンポポという身近な植物を通して生物多様性に関心を持っていただけるよう、2011年2月に「みんなで創ろう全国タンポポ前線マップ」をスタートさせました。2011年5月末までに7,700枚以上の写真を送っていただき、タンポポ前線マップが完成いたしました。本調査の実施にあたり、全国からの大容量のデータ送付に対応できるよう、フレキシブルにシステム増強が可能な富士通の「オンデマンド仮想システムサービス」を活用しています。

### タンポポ調査の仕組み



完成した全国タンポポ前線マップ

## 2011年3月期の主な外部表彰(富士通グループ関連)

| 内容                                | 年/月     | 主催                                    | 内容                                                                            |
|-----------------------------------|---------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| グリーンITアワード2010 経済産業大臣賞            | 2010/10 | グリーンIT推進協議会                           | IT機器の大幅な省電力に貢献する量子ドットを用いた半導体レーザー                                              |
| 第12回グリーン購入大賞 大賞                   | 2010/10 | グリーン購入ネットワーク                          | 富士通グループ購買部門における生物多様性保全の取り組み                                                   |
| グリーン・グリッド データセンター・アワード2010 優秀賞    | 2010/10 | グリーン・グリッド日本支部/<br>DatacenterDynamics社 | データセンターの継続的なエネルギートレンド監視と省エネWG                                                 |
| 平成22年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰         | 2010/11 | 環境省                                   | 事業場から排出する廃棄物量の削減を中長期的目標を立て計画的に進め、大幅な削減を実現                                     |
| 第7回LCA日本フォーラム表彰 奨励賞               | 2010/12 | LCA日本フォーラム                            | 製品開発活動および生産活動へのLCAの実践                                                         |
| 平成22年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰 対策技術導入・普及部門 | 2010/12 | 環境省                                   | モーダルシフトによる輸送CO <sub>2</sub> 排出量の削減活動/<br>先進の大学内プライベートクラウド構築によるICT機器のエネルギー大幅削減 |
| 低CO <sub>2</sub> 川崎パイロットブランド'10   | 2011/2  | 川崎市                                   | 「SPARC Enterprise Mシリーズ」、「ファシリティキューブ」                                         |

## 第6期富士通グループ環境行動計画の初年度目標を全て達成。 環境経営トップ企業を目指し、グローバルな環境活動をさらに強化していきます。

2011年3月期、富士通グループは18項目からなる第6期富士通グループ環境行動計画を開始し、初年度目標を全て達成しました。主な活動成果として、グリーンICTの提供拡大や温室効果ガス排出量の削減、また、新たに重点分野とした「生物多様性の保全」における事業活動の影響と貢献を測る定量指標の開発が挙げられます。

そして、環境経営のグローバル化も推し進めました。例えば、環境配慮製品の開発を強化するために、サーバやパソコンを開発しているドイツの富士通テクノロジー・ソリューションズとグローバル規格をベースにした環境配慮設計の共通規定を策定しました。また、環境負荷低減評価手法に関する標準化を進展させるため、国際標準化機関である国際電

気通信連合やICT for Energy Efficiency Forumなどへ積極的に参画しました。これらの成果もあり、2011年3月期はステークホルダーの皆様から多数の表彰や評価をいただくことができました。

将来の環境経営トップ企業を目指し、今後もグローバルな環境活動をさらに強化していきます。

まず、法令遵守を徹底し、グローバルなガバナンスを強化していきます。そして、お客様や社会に対して約束している第6期富士通グループ環境行動計画の目標を確実に達成します。さらに、お客様の新たな価値を創造する環境技術の開発や環境ソリューションを提供するとともに、国内のデータセンターなどで培った環境先進技術をグローバルに展開していきます。

2011年3月に発生した東日本大震災の影響により、社会全体でエネルギーをこれまで以上に効率良く使用していく必要があります。富士通グループは、これまで培ってきた環境経営の基盤を活かして徹底した節電に取り組むと同時に、今後も継続的に自社のエネルギー効率を向上させていきます。また、自社での実績をもとに省エネルギーでCO<sub>2</sub>排出量が少ない製品やサービスの開発に積極的に取り組み、お客様に貢献していきます。



特命顧問(環境担当)

高橋 淳久

環境本部 本部長

竹野 実

## 社会貢献活動

富士通グループは2010年12月、地球と社会の持続可能な発展に貢献するため、CSR(企業の社会的責任)基本方針を制定し、その実践にあたり優先的に取り組むべき5つの重要課題を設定しました。これら課題への対応を通じて、グローバルICT企業としてCSR経営を推進していきます。

### 5つの重要課題

富士通が取り組むべき5つの重要課題は大きく3つの項目に分類されます。

#### 1. 企業活動を通じた社会的課題の解決

富士通グループは、企業活動を通じて社会の様々な課題を解決し、地球と社会の持続可能な発展に貢献します。

##### 重要課題1. ICTによる機会と安心の提供

世界の70億人をICTがつなぎ・支える社会の実現に貢献し、人々に夢のある機会と安心を提供する。

##### 重要課題2. 地球環境保全への対応

ICTによりグローバルな環境課題の解決に貢献するとともに、自らの環境負荷を低減する。

#### 2. CSR活動の基盤強化

地球と社会の持続可能な発展に貢献するため、社員がグローバルな視野をもち、生き生きと活躍できるCSRの基盤を強化します。

##### 重要課題3. 多様性の受容

企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、年齢、障がいの有無、価値観に関わらず、多様な人材を受け入れ活かす。

##### 重要課題4. 地球と社会に貢献する人材の育成

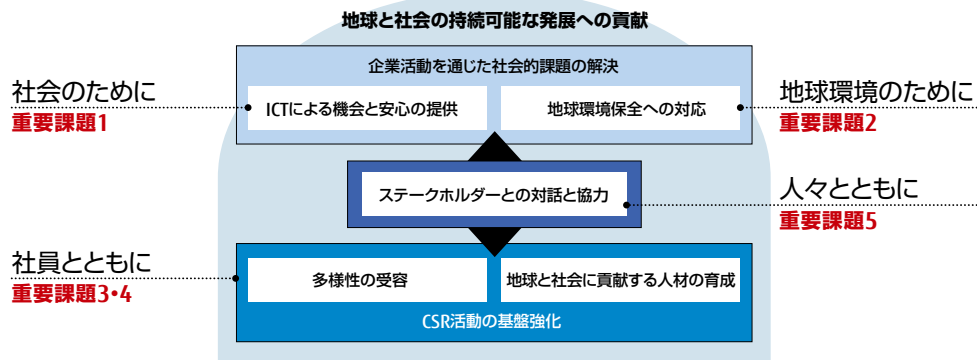
グローバルな視点にたち、他に先駆けて社会の発展に貢献する高い志を持った人材を育てる。

#### 3. ステークホルダーとの対話と協力

3つ目として、上記2つの項目を多面的視点から推進するため、従来のビジネスの枠組みを越えた、幅広いステークホルダーとの関係構築に取り組みます。

##### 重要課題5. ステークホルダーとの対話と協力

良き企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施する。

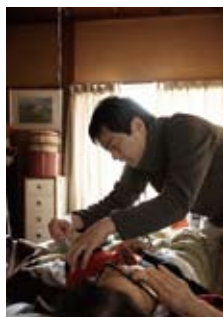


#### スマートフォン活用による在宅医療の実現

日本では高齢化に伴って独居老人の増加、医療費の高騰が課題となっており、自宅療養を可能にするための環境整備が求められています。

在宅医療専門の祐ホームクリニックは、2010年12月から、富士通のクラウドシステムを活用し、スマートフォンで患者宅訪問のスケジュール管理から地図情報の確認、バイタル入力、処方箋の送信までを行えるようにしました。これによって、従来比2倍以上の在宅患者の訪問件数と医療の質の向上を実現しています。

富士通は、電子カルテの国内市場シェア30%超を有するなど、これまでも医療環境の改善に貢献してきました。今後は在宅医療の分野においても、民間企業の健康関連サービスや生活支援サービスとの連携による循環型経済の確立に向けて、この取り組みを拡大していきます。



在宅患者の診察を行う医師

#### ブラジルでATM向けの新しい生体認証ソリューションを提供

ラテンアメリカ最大の民間金融機関(3,628支店、ATM32,015台)であるBradesco S.A.(ブラデスコ銀行)では、ATMに富士通の手のひら静脈認証装置「PalmSecure(パームセキュア)」を搭載しています。

ブラジル国内ではATMの不正操作が社会問題となっており、複数の生体認証システムの導入を検討した結果、「高い認証率」「手のひらの静脈が外的な影響を受けにくい」などの特長が高く評価され、富士通製のシステムが導入されました。この「PalmSecure」は、国内外を問わずPCログインやビルの入退室など幅広い分野で導入が進んでおり、社会の安全・安心を支えています。



ブラデスコ銀行のロゴ



ブラデスコ銀行のATM